

日産車体株式会社

個人投資家向け会社説明資料

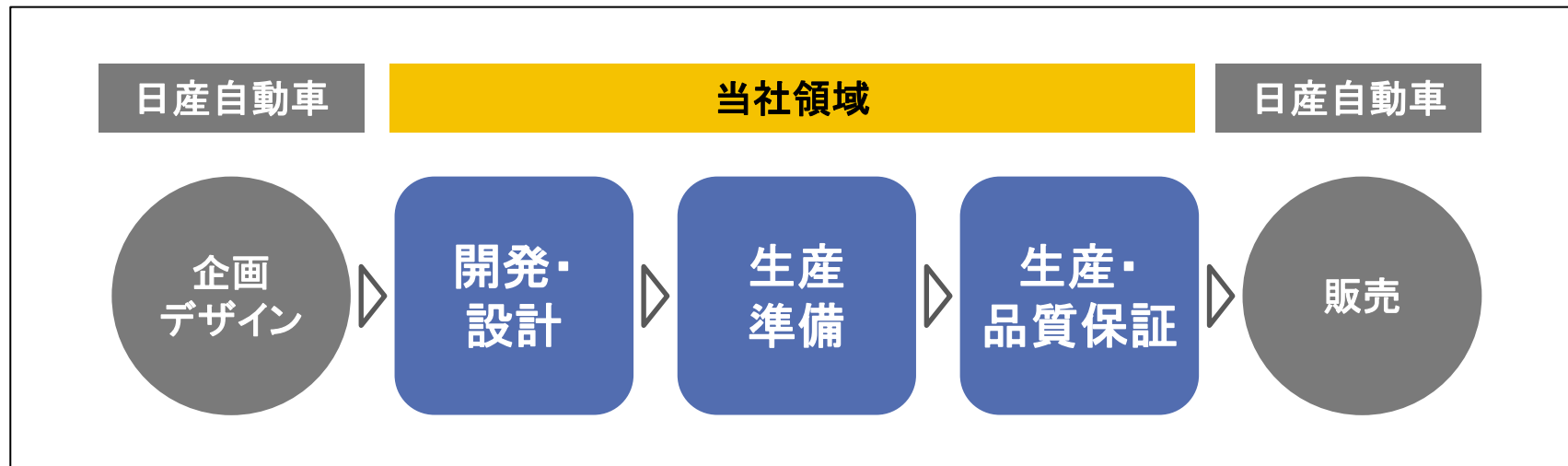


2024年 5月

当社の事業領域

日産車体は

商用車・プレミアムカーを中心とした開発・設計から
生産準備、そして工場での生産・品質保証までを担う
日産グループの完成車メーカーです



当社のコーポレートパーパス・ミッション等

コーポレートパーパス(存在意義)

人々の生活を豊かに。イノベーションをドライブし続ける。

ミッション(使命)

私達日産車体は信頼される企業として、独自性に溢れ、お客さまに魅力ある質の高いクルマとサービスを、タイムリーにお届けします。

中期経営計画「2023-2027中期経営計画」

目指す姿を「商用車とプレミアムカー、特装車、サポート事業で社会に貢献し、お客さまから頼られる唯一無二の存在となる」と定め、「持続可能な企業基盤」、「魅力ある商品の創出」、「独自性の進化と深化」、この3つの重点課題に取り組めます。

DNA

他のやらぬことを、やる。

情熱的 革新的 挑戦者 機動性

Nissha-ism

日車らしさを、車づくりで表現する。

- ・お客さま、仲間を想い、知恵を出す
- ・何ができるか自ら考え行動する
- ・機動力を活かし、チームで挑み続ける

日産車体グループ

湘南工場と日産車体九州の2つの生産拠点が主軸です

	日産車体(株)	日産車体九州(株)
設立	1949年	2007年
事業内容	各種自動車の開発から 品質保証まで	自動車および その部分品の製造・販売
従業員数	1,681名	1,072名
生産拠点	神奈川県平塚市	福岡県苅田町

(2024年3月31日現在)

湘南工場



日産車体九州工場



グループ会社

日産車体マニファクチャリング株式会社

- ▶ 自動車部品のプレス加工・組立、樹脂製品の成形・組立

日産車体エンジニアリング株式会社

- ▶ 機械設備等の保全・整備、各種設備工事、物流業務

株式会社 オートワークス京都

- ▶ 自動車の特別架装

日産車体コンピュータサービス株式会社

- ▶ システム開発・プログラム開発業務

株式会社 プロスタッフ

- ▶ 人材派遣

沿革

年 月	社 歴
2024年	4月、新型QX80生産開始
2019年	7月、パトロール(Y62)2020モデル生産開始
2018年	パラメディック(E26)発表
2016年	6月、日産車体九州で北米向け大型SUVの「新型アルマーダ」生産開始
2014年	3月、新本社を第2地区に竣工・湘南再編完了
2012年	湘南工場第1地区での車両生産を終了、湘南工場第4地区での車両生産を第2地区へ集約、湘南工場の車両生産体制の再編を完了
2010年	日産車体九州稼働開始
2007年	子会社「日産車体九州株式会社」設立／生産累計1,500万台達成
1992年	生産累計1,000万台達成
1951年	日産自動車(株)と提携
1949年	当社前身 新日国工業(株)設立

▶ INFINITI



▶ LCV



NV200 NY市 タクシー提案モデル

▶ ミニバン



▶ フェアレディZ



主な生産車

2024年5月21日時点

湘南工場



NV200
VANETTE
NV200 バネット



AD
AD

日産車体九州



QX80
QX80



PATROL
パトロール：Y62



PATROL
パトロール：Y61



ARMADA
アルマーダ



ELGRAND
エルグランド



CARAVAN
キャラバン

オートワークス京都



救急・医療関係車両



消防関係車両



幼稚園バス



公共応急作業車両



公共応急作業車両

※ 株式会社オートワークス京都は、パルメディック(高規格救急車)など救急・医療関係車両、消防関係車両、幼稚園バス、公共応急作業車両など働くクルマの架装を行っている日産車体株式会社のグループ会社です。

特長

完成車メーカーとしてのDNAを活かした、 多くの特長を持っています

湘南工場

日産グループにおけるLCV生産の要



▶ モノコック車



▶ フレーム車

日産車体九州

INFINITIブランドの生産を認められた工場



▶ ローラーヘミングによるエンジンフードの生産



▶ 3-WET塗装

特装車

開発から生産までの一貫体制でお客さまのニーズに合った特装車をお届け



2023年度 連結決算概況

決算サマリー

当社グループを取り巻く環境は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う経済活動の抑制や、一部の部品供給問題の影響等を受けた前連結会計年度と比べ生産活動は回復したものの、2024年1月に発生した能登半島地震の影響による構成部品の供給不足や、需要の変動など厳しい状況となった。

このような環境において、売上台数が減少した結果、減収・減益となった。

売上台数	前連結会計年度と比べ2.0%減少の139,121台
-------------	---------------------------

売上高	主に「NV200バネット」等の商用車の売上が伸びたものの、「アルマーダ」等の乗用車の売上台数が減少した結果、2.1%減少の3,010億円
------------	--

営業利益	売上台数の減少や車種構成の悪化、市況変動の影響等により77.7%減少の9億円
-------------	--

経常利益	72.8%減少の13億円
-------------	--------------

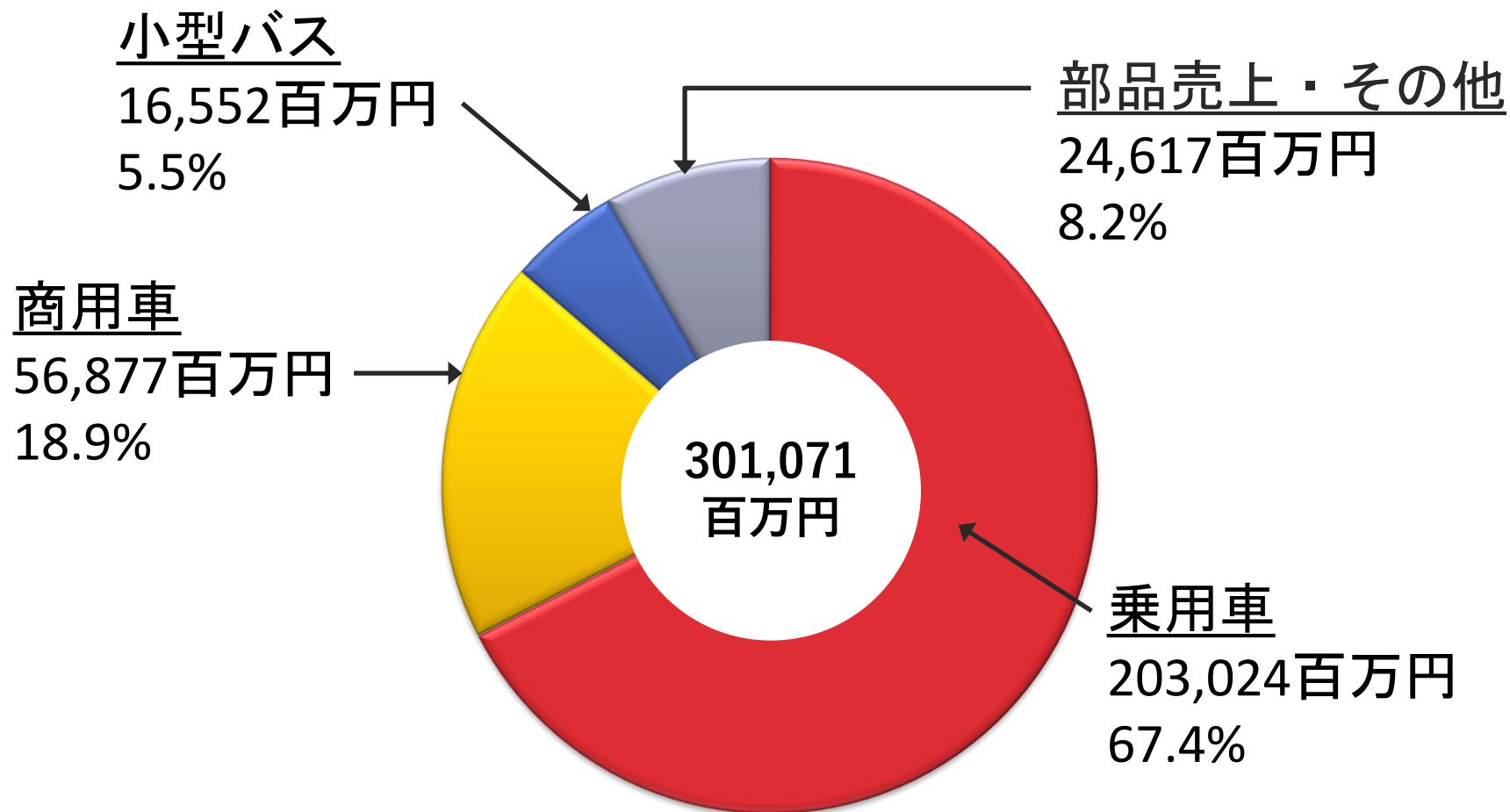
親会社株主に帰属 する当期純損益	89.5%減少の4億円
---------------------	-------------

業績ハイライト

単位:百万円

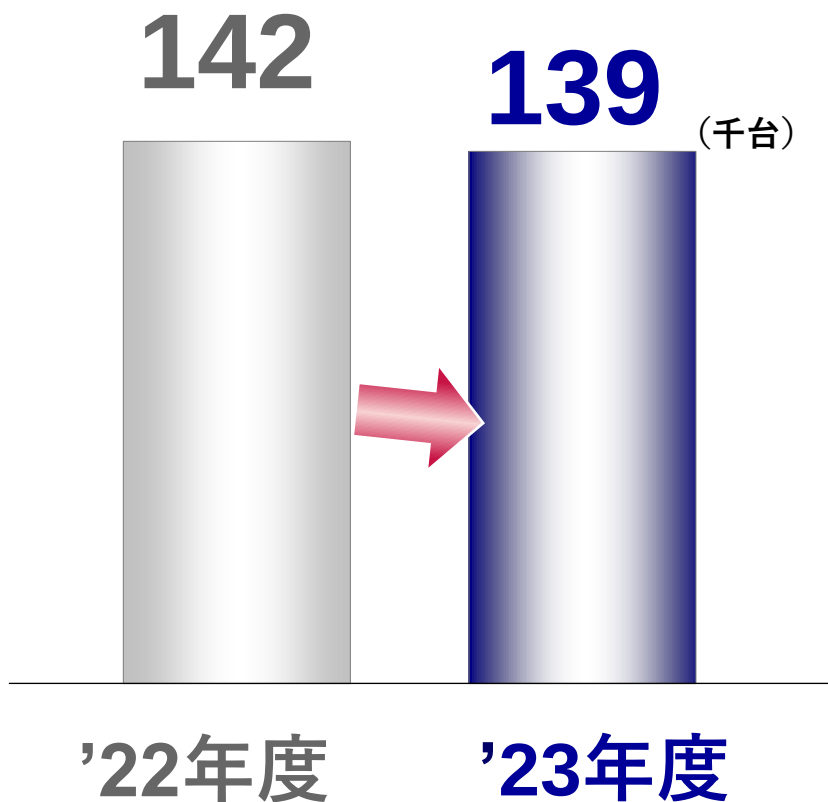
	2022年度 (2023/3)	2023年度 (2024/3)	増減額(率)	2024年度 計画
売上高	307,521	301,071	▲ 6,450 -2.1%	328,700
営業利益	4,390	979	▲ 3,411 -77.7%	8,700
経常利益	5,118	1,392	▲ 3,726 -72.8%	9,000
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,883	407	▲ 3,476 -89.5%	5,400

製品別売上高構成比



売上台数

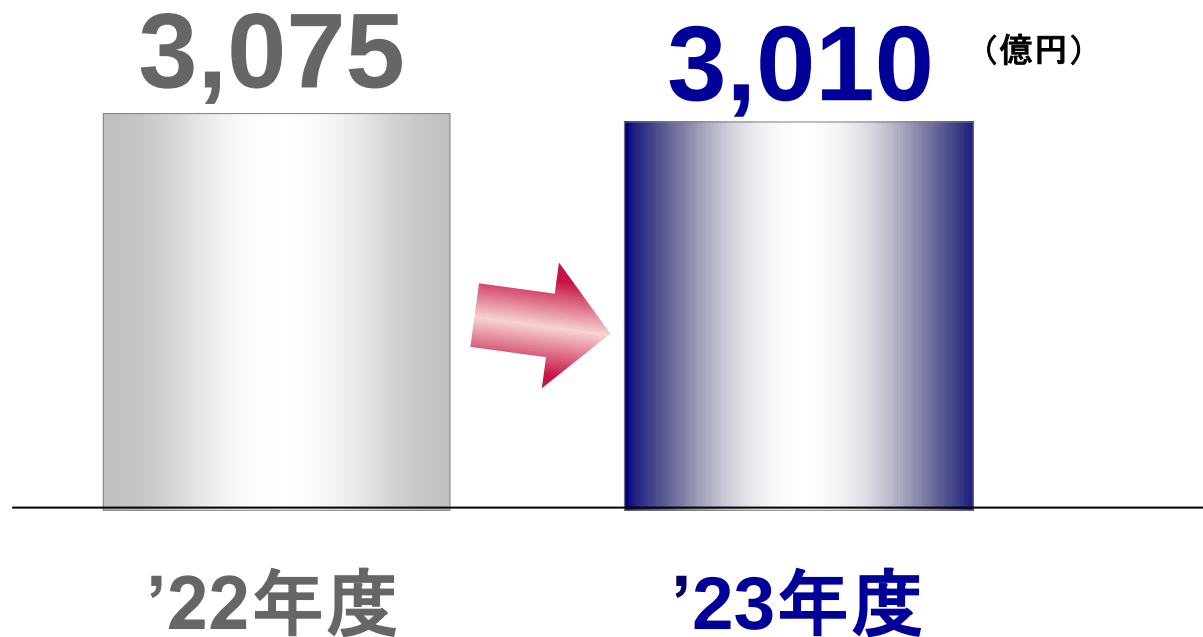
前連結会計年度と比べ2.0%減少の139,121台



	(千台)		
	前期実績	当期実績	増減率
乗用車	85	79	-7.1%
商用車	45	48	5.5%
小型バス	11	12	6.3%
合計	142	139	-2.0%

売上高

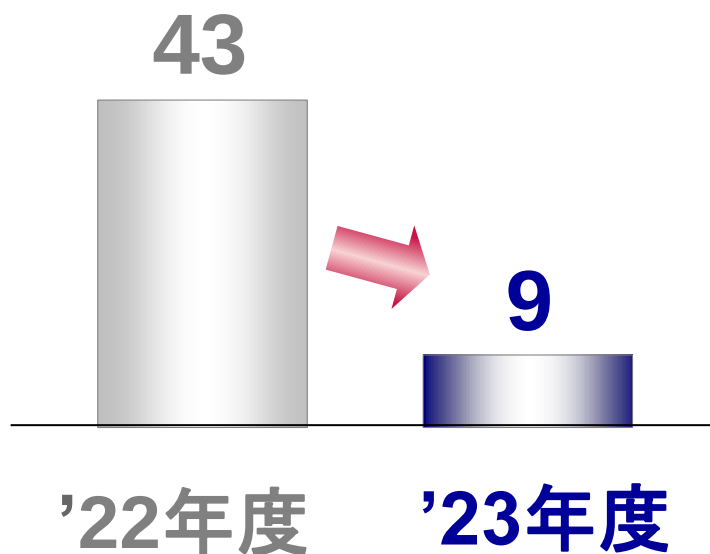
主に「NV200バンネット」等の商用車の売上が伸びたものの、「アルマーダ」等の乗用車の売上台数が減少した結果、2.1%減少の3,010億円



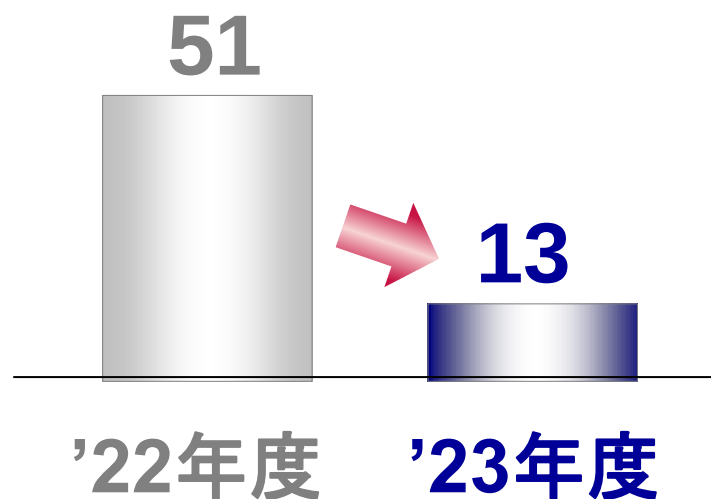
営業利益／経常利益

営業利益は売上台数の減少や車種構成の悪化、市況変動の影響等により77.7%減少の9億円
経常利益は72.8%減少の13億円

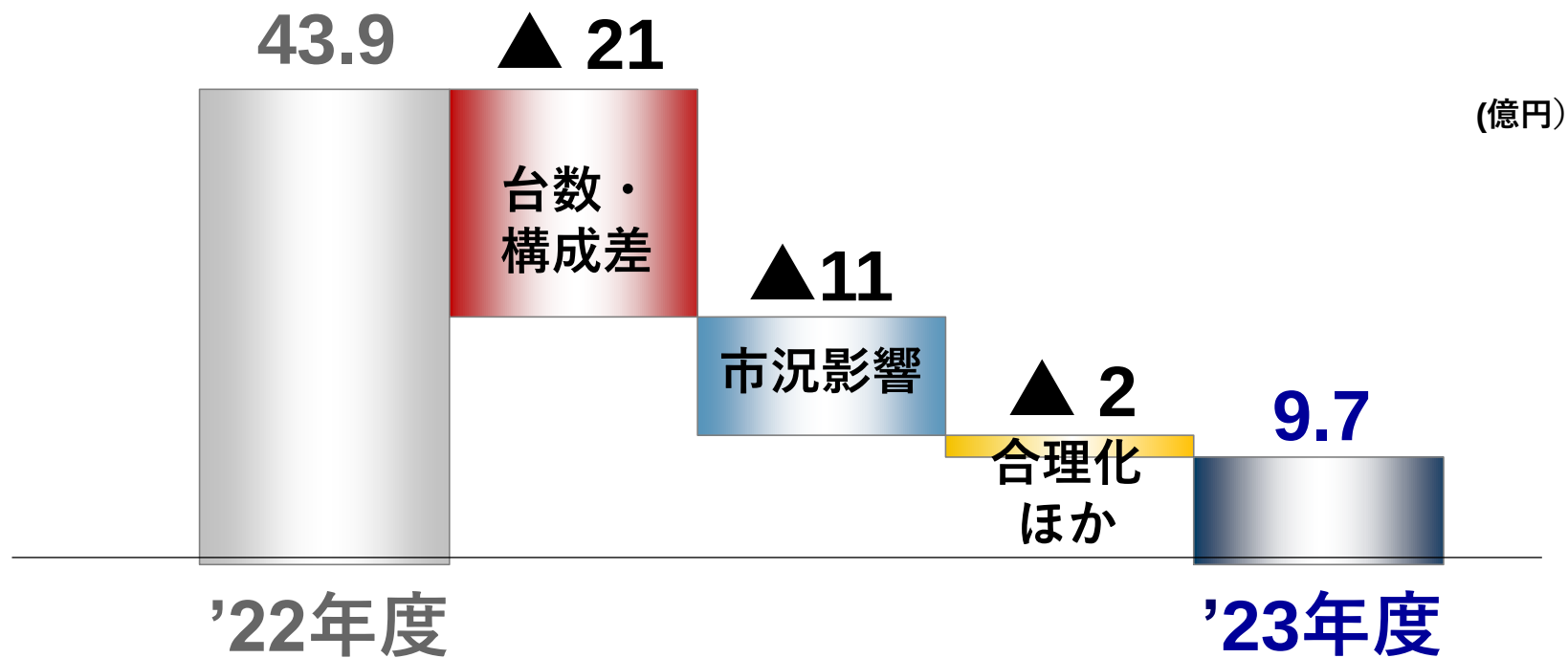
営業利益 (億円)



経常利益 (億円)

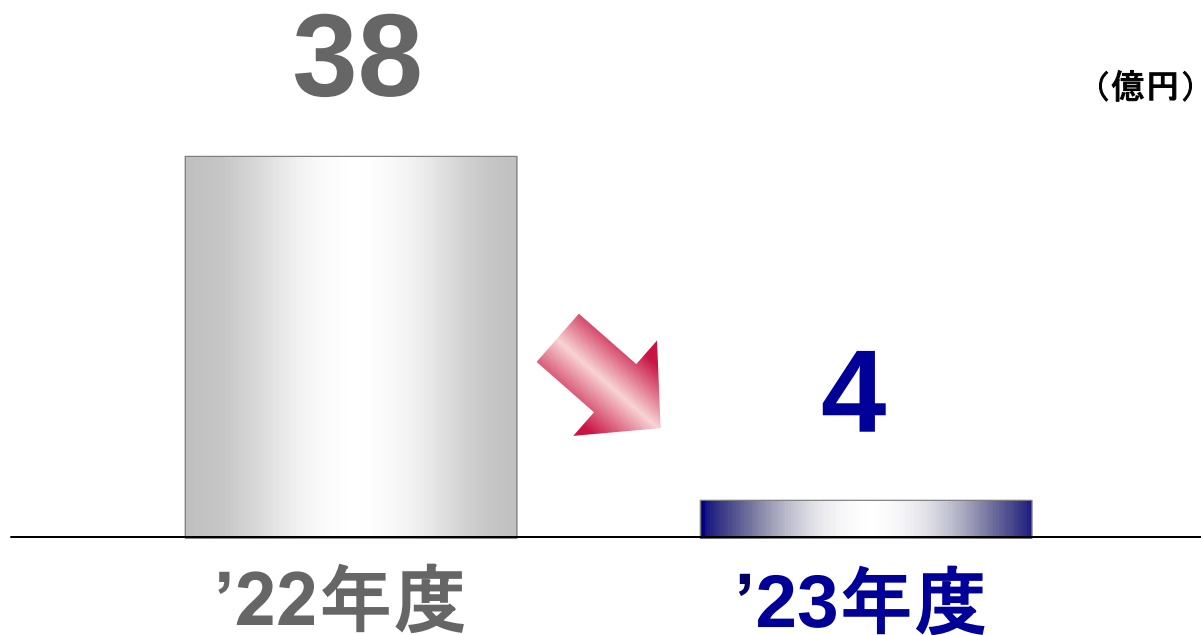


営業利益の増減要因



親会社株主に帰属する当期純利益

89.5%減少の4億円



2024年度 連結業績見通し

2024年度の業績予想

<今後の見通し>

2024年1月に発生した能登半島地震の影響による構成部品の供給不足リスクは解消し、2025年3月期には新型車の生産開始が予定されていることなどから、2024年3月期よりも売上台数は増加する見通しです。

単位: 百万円

	2023年度 (実績)	2024年度 (計画)	増減額	増減率
売上高	301,071	328,700	27,629	9.2%
営業損益	979	8,700	7,721	788.7%
経常損益	1,392	9,000	7,608	546.6%
親会社株主に帰属する 当期純損益	407	5,400	4,993	1226.8%

株主還元

2024年度 1株当たり配当金

安定配当を継続する基本方針のもと、2025年3月期は年間13円を予定

■ 中間配当金 ■ 期末配当金

